



城西国際大学
薬学部2年
須藤日奈子

薬学生が学ぶこと

手話教室を通して

テレビ、新聞、ラジオ、手紙、電話、e-mail、インターネット、携帯電話など、人と人との情報共有の手段には様々なものがあり、また、それらは想像以上の利便性をもたらしています。現代社会を生きる私たちは、まさにその恩恵に浸っているわけです。

反面で、パソコンや携帯電話でのメールなど、簡便な方法による情報伝達に普段から頼



手話を教える中山先生(右)と、生徒たち

前列中央左から富澤先生、中山先生、そしてサークルの学生たち



私たちのサークル活動

っていることで、人と人との直接的なコミュニケーションを行う機会を減らしてしまっていることも事実です。

さらに、私たち薬学生は将来薬剤師として患者さんの前に立ち、顔と顔を合わせてのコミュニケーションを仕事とします。その患者さんの中には、通常のコミュニケーションに頼ることのできない障害者の方も含まれます。しかし薬剤師は、薬や生活支援に関する情報を正確に患者さんに伝えることが使命であり、それが困難な場合であっても、様々な手段を講じてその使命を果たさなければなりません。

このような背景を踏まえ、私たちはface to

faceのコミュニケーションスキルを学ぶことと障害を持った方々への接し方を学ぶことを共通に捉え、サークル活動の一環として、手話教室を開講しました。開講に際して、講師や通訳者の依頼、教室の取り組み方など、運営の基盤を本学薬学部薬理学講座の富澤崇先生にご協力いただきました。手話講師には千葉県東金市聴覚障害者協会会長の中山多賀子先生をお招きしてご指導いただいています。中山先生はろうあ者であり、現在東金市において、ろうあ者が暮らしやすい環境づくりのために精力的に活動されています。忙しい合間を縫って、月に1回1時間半の教室を行っていただいています。

障害者の支えになれる薬剤師を目指し

教室の内容としては、あいさつや自己紹介などの日常生活で使える簡単な手話や指文字の練習、さらには、薬局カウンターでの服薬指導や医薬品の販売などのシチュエーションを想定した実践的なコミュニケーションの練習があります。

これらの指導には手話通訳の方の協力も不可欠であり、本学の事務職員でもある眞部静子さんをお願いしています。



私たちは中山先生のお話を全て通訳者に頼るのではなく、先生の顔の表情や手話以外のジェスチャーなどを通して、一生懸命理解することに努めています。また逆に、習得した数少ない手話や表情、身振り手振り、口話(話を口の動きで伝える)、筆談などを駆使して、自分たちの意思を伝える努力もします。これにより非言語コミュニケーションスキルの効果的なトレーニングとなるうえに、他者への傾聴、受容の態度教育になると考えています。

こうして私たちの手話教室は現在7回目の開講を終え、薬学部のみならず他学部の学生も含め20人程度の参加者を擁し、毎回趣向を凝らした内容で楽しく学習しています。

このようなサークル活動を通して、ろうあや難聴、その他障害を持った方々のことを本当の意味で理解し、そして支援できる薬剤師を目指していきたいと考えています。

薬学生のソーシャルネットワーキング

www.canpass.net

医療系ブログを見なきゃ!

薬学生の役立つ情報満載!!

リニューアルして
さらにパワーアップ!

無料
就職情報
会社説明会情報
学校別掲示板
ブログ(日記) etc.



もっとひろがる きっとみつかる **キャンパス*ネット**

キャンパス*ネットは(株)グッピーズにより運営されています。

キャンパス*ネット 東京都新宿区西新宿7-21-1 新宿ロイヤルビル8F TEL:03-3363-5891 FAX:03-3363-5892 e-mail:info@canpass.net